

高野新聞

Vol.65



たかの
高野 たけし
無所属 39歳

逗子市議会議員（三期）
・副議長
・教育民生常任委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

6月14日～29日の日程で、平成24年第2回定例会が開催されました。今定例会には5,641万1千円の補正予算案が上程されましたが、委員会審査を経て行われた採決の結果、賛成多数で可決となりました。（以下に一部掲載）

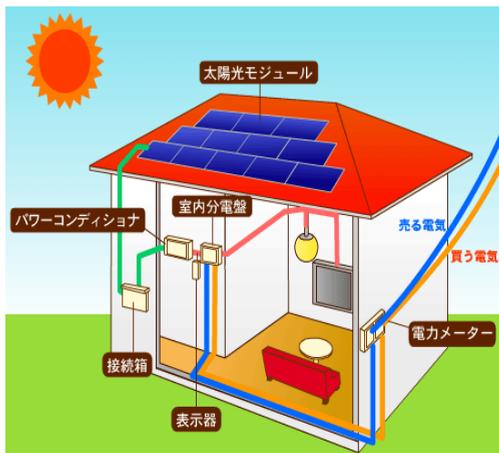
◆ソーラーパネルの助成申請が予想をはるかに超える

今年度は「住宅用太陽光発電補助金」の申請件数が多く、年度当初に予定していた520万円の予算がすでに無くなってしまったとのことで、新たに520万円（市補助208万円：40件、県補助312万円：60件）の予算が組まれました。

補助金額は、市の制度、県の制度とも発電量1kwあたり15,000円（上限52,000円）となっており、合わせて利用すれば上限10万4,000円の補助を受けることができます。昨年度と同額の予算を組んでいたにもかかわらず、これほど早く予定件数を上回ってしまったことについて担当所管は、「設置単価がこれまでと比べて安価になってきたこと」、「売電価格が安定してきたこと」等を要因に挙げていました。

市の補助制度は平成15年度から、県の補助制度は平成21年度からスタートしていますが、これほどの申請件数はこの間のトレンドからは予測できなかったとのこと。

電気料金の値上げに関するニュースが日々流れている現状を考えれば、自然エネルギーの利用を少しでも増やしていこうと考えるのはすごく当たり前のように感じます。こうした動きに対して、少しでも助成体制を継続できるよう行政当局には尽力いただきたいと思います。



政治資金の残り あと 75,866円

(3/1～6/30の内訳)	支出…ポスター掲示用テープ	4,156円
	ポスター掲示用広報版	1,096円
	のぼり	4,379円

◆市民提案の子育て支援策が事業化

「逗子市協働事業提案制度」に則って市民団体から提案のあった2事業の予算案が可決しました。

一つは「親子遊びの場運営事業(49万円)」で、孤立しがちな未就園児親子が安心して外遊びをし、母親同士も自然につながりが持てる環境づくりを目的に、月に2回(1回2時間程度)、市内の公園など場所を変えながら遊びの場を提供していくものです。この事業は、子育てにおける悩みを解消する場所としても有効に作用するのではないかと考えています。

もう一つの「自然の遊び場運営事業(30万4千円)」は、逗子の自然環境を活用した遊び場・体験プログラムを市内の児童と保護者に提供するもので、四半期に1回、市内の公園等で実施予定となっています。遊びのエキスパートであるプレイリーダーを招聘し、企画・運営を担っていただくこの事業は、子どもたちにとっても普段の遊びとは一線を画した新たな発見が見つけれられる場となるのではないかと期待しています。

両事業とも、申し込みをすればどなたでも参加できるそうなので、ご興味がある方は市のHPや「広報ずし」をチェックしてみてください。

◆市内初の小規模多機能型居宅介護施設

小規模多機能型居宅介護施設の開設に伴い、建設費用を助成する「介護基盤緊急整備等助成事業」の補正予算案を可決しました。予算額の2,998万5千円は、全額県からの補助金で賄われます。

新宿3丁目地内に進出する今回の施設は2階建てとなっており、訪問20名、通い11名、宿泊5名程度の利用者数を想定しているとのことです。

小規模多機能型居宅介護施設は、近隣の鎌倉市(5施設)、横須賀市(3施設)、三浦市(3施設)にはこれまでもありましたが、逗子市では初めての施設となります。そのため、新たな形での介護サポートに期待が寄せられます。

ただし、今回進出を予定している場所が第一種住居地域となっているため、建設時だけでなく、運営開始後も近隣住民の理解と協力が得られるよう努力するとともに、近隣に住む方々の生活環境に配慮して頂きたい旨、行政当局には要望したところです。

視察報告 ～モニタリングポスト～

神奈川県が、県立逗葉高校の敷地内に新たに設置した空間放射線量を測定するモニタリングポストの視察に行ってきました。

モニタリングポストは検出装置で放射線を感知する仕組みになっており、その結果を測定機が放射線量として計測します。

駐車場の一角に設置された検出装置



校内に設置された測定機



これまで県内には、衛生研究所のある茅ヶ崎市に1ヶ所、核燃料実験施設のある川崎市に5ヶ所と、加工施設のある横須賀市に8ヶ所モニタリングポストが設置されていましたが、設置場所が偏っていたことは否めません。そこで、1基あたり半径20km圏内を基準として、県全域をカバーできるよう新たに5ヶ所の増設がなされました。

【新設場所】

- ① 県立逗葉高校（逗子市桜山）
- ② 県立岸根高校（横浜市港北区岸根町）
- ③ 県産業技術センター（海老名市下今泉）
- ④ 県相模川発電管理事務所（相模原市緑区谷ヶ原）
- ⑤ 県立小田原城北工業高校（小田原市栢山）

東日本大震災から1年以上が経過しましたが、未だ放射線量に対する不安は多くの人達の心に残っています。今回の取り組みが情報格差の解消につながるとともに、少しでもその不安を和らげる一助になればと思っています。

※県立逗葉高校に設置されたモニタリングポストの測定値(10分毎)は、文部科学省のホームページ内にある「放射線モニタリング情報」からご覧になれます。

どーなっているの？

市民の皆様からいただいた、ご意見・ご要望にお答えするコーナーです。

Q1. 駅前の分煙化

「駅前での喫煙を条例等で規制してほしい」、「駅前での喫煙ができる場所を限定するために、喫煙所を設置してほしい」といった趣旨のお話を数名の方からいただきました。

この件に関しては、行政内部で調査・検討を行った上で対応していただきたい旨、市長に要望したところです。

喫煙所を設置した上で駅前での路上喫煙を禁止する事は、受動喫煙の防止だけでなく、駅前美化の観点からも有効な手段になり得ると考えます。また、こうした形は喫煙者と非喫煙者の共存を図る最善策であるとも思います。

逗子市の場合、駅前に喫煙所を設置するスペースを確保するためには、鉄道事業者に協力頂かなければ難しいなどの問題はありますが、より良い地域づくりのためにも早期に実現できればと思っています。

Q2. 避難場所の確保

逗子海岸付近に津波避難タワーを設置してほしいとのご意見を頂きました。聞けば新宿地域にお住まいらしく、地域内にも高齢者が多くなってきた事を考えると、なるべく至近距離に避難場所があればとのことでした。

現在、逗子海岸付近の広域避難場所として披露山公園、県企業庁逗子配水池が、津波避難ビルとして逗子開成学園、聖マリア小学校、葉山工務店が指定されていますが、避難場所の数としては十分とは言えない状況にあります。しかしながら、津波避難タワーを設置すると言っても場所の確保が難しいのも現状です。そのため、津波避難タワーの設置以前に、海岸付近のマンションに対して改めて津波避難ビルとしての指定を受けていただく動きをした方が良いのでは、との話をその方にはさせていただきました。

市民の方から津波避難タワーの設置を望む声があったこと、そして津波避難ビル確保に向けた対応の必要性については担当所管にお話させていただきました。また、津波発生時に避難経路として使用される道(特に山道)においては、高齢者の方々も自力で登ることができるよう整備していただきたい旨、合わせて要望いたしました。

市政に関するご意見・ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



Tel / Fax: 046-871-7368 E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp